

《資料》

2021 年度安全保障技術研究推進制度に採択された

千葉工業大学への質問と回答、および訪問要請と拒否回答

千葉工業大学長 松井 孝典様

2021年10月17日

軍学共同反対連絡会 <http://no-military-research.jp/>

同代表 池内 了 (名古屋大学名誉教授)

香山リカ (立教大学教授)

野田隆三郎 (岡山大学名誉教授)

私たちは、軍学共同に反対する運動をしている市民団体です。

貴学は今年、防衛装備庁の安全保障技術研究推進制度に応募され採択されました。

2015年に貴学が同制度に応募された際、当連絡会の構成団体である「大学の軍事研究に反対する会」(共同代表 木村忠彦千葉大学名誉教授)が翌年4月、貴学を訪問し、9016人の署名者名簿を添えて、抗議の申し入れをしました。

また私たちは2017年6月8日に貴学をはじめ、全国の国公私立大学と研究機関に「軍事研究を行わない」と誓った戦後の学術の原点に立ち帰って、同制度に応募しないよう求める要請書を全国8365名・50団体の賛同署名者名簿をそえて郵送で届けました(念のため資料としてつけておきます。)

今年度、私たちの要請を無視して貴学が同制度に応募し、採択されたことに強く抗議します。私たちの要請に多くの研究者・市民が賛同してくださったことからわかるように、多くの国民が、大学が同制度へ応募することに危惧を抱いており、4年前の声はその後さらに広がっています。それをうけて多くの大学が応募しないことを決め、今年度の大学からの応募件数はわずか12件です。

その中で、このような市民の声を無視して、貴学が応募されたのはどのような趣旨・理由からでしょうか。大学は国民に対する説明責任を負います。ぜひ私たちの質問に明確にお答えくださいますようお願いいたします。

回答は11月2日までに下記へメールでお寄せくださいますようお願いいたします。

回答送付先 軍学共同反対連絡会事務局長 小寺隆幸

軍学共同反対連絡会への回答 2021年11月24日(水)

『本学では、国立大学やほかの多くの私立大学同様、外部資金獲得について奨励をしております。本学の教員・研究員は、研究活動を円滑に行うため、外部資金獲得に向け、国の事業をはじめ、企業の助成金に至るまで多くの事業にエントリーをしております。本件の応募にあたっては「軍事技術に直接かかわる研究のための補助金ではないこと」と承知しており、問題ないものと考えます。』

学長 松井孝典

千葉工業大学長 松井 孝典様

2021年11月26日

軍学共同反対連絡会 <http://no-military-research.jp/>

同代表 池内 了 (名古屋大学名誉教授)

香山リカ (立教大学教授)

野田隆三郎 (岡山大学名誉教授)

11月17日付の私たちの質問に対するご回答を11月24日、メールで受け取りました。

しかし、これは全く回答になっていないと私たちは考えます。

質問書では「このような(軍事研究に反対する)市民の声を無視して、貴学が応募されたのはどのような趣旨・理由からでしょうか」と問いました。

回答書で貴学は『軍事技術に直接かかわる研究のための補助金ではない』ことを承知しており」と書いていますが、その根拠はいつさい述べられていません。

改めて言うまでもなく、防衛装備庁の安全保障技術研究推進制度は「防衛分野での将来における研究開発に資することを期待し、先進的な民生技術についての基礎研究を公募する」と明記しています。防衛装備庁にとってこの研究成果を防衛装備品【武器】開発のために活用する意図は明白であり、だから防衛費から予算が出るのです。

しかも貴学が今回採択された研究課題「高エネルギー物質を用いた高性能固体推進役に関する実験的研究」は、「ロケットエンジンの性能を大幅に向上させる基礎研究」であり、装備庁が今取り組んでいる従来のミサイルの長射程化や極超音速ミサイル開発などに応用しうるものであることは明らかではないでしょうか。貴学が、ロケットエンジンの性能を向上させるための研究が軍事技術に関わらないとお考えになった根拠は何でしょうか。

また、応募されるにあたっては、日本学術会議2017年声明の次の指摘をどのように受け止められたのでしょうか。

「防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」(2015年度発足)では、将来の装備開発につながるという明確な目的に沿って公募・審査が行われ、外部の専門家でなく同庁内部の職員が研究中の進捗管理を行うなど、政府による研究への介入が著しく、問題が多い。」

全国の多くの国公立大学は、この日本学術会議の問題提起を受け止め、応募をしないとしています。

貴学はどのように受け止められたのかをお知らせください。

さらに声明はこう記しています。

「研究成果は、時に科学者の意図を離れて軍事目的に転用され、攻撃的な目的のためにも使用されるため、まずは研究の入り口で研究資金の出所等に関する慎重な判断が求められる。大学等の各研究機関は、施設・情報・知的財産等の管理責任を有し、国内外に開かれた自由な研究・教育環境を維持する責任を負うことから、軍事的安全保障研究と見なされる可能性のある研究について、その適切性を目的、方法、応用の妥当性の観点から技術的・倫理的に審査する制度を設けるべきである。」

貴学が今回応募されるにあたって、どのような審査をおこなったのでしょうか。その審査の方法や内容、軍事研究ではないと判断するに至った根拠をお示しください。

以上の点について、私達連絡会は、直接貴学に出向いて、貴学の見解をお聞きするとともに、私たちの申し入れを行なおうと思います。12月中旬に数名の研究者と市民で訪問し、メディアの方も同席したうえで貴学の見解を伺おうと思います。年末でお忙しい時期とは思いますが、新型コロナウイルスの感染も沈静化している中で、12月13日、14日、15日の中でご都合の良い日時に伺おうと思います。こちらの準備もありますので、訪問日時を12月3日までにご指定下さるようお願いいたします。

私たちは、貴学が「世界文化に技術で貢献する」という見学の精神を掲げ研究と教育活動を行なってこられたこと、さらに昨年、「地球学という俯瞰的な視点から文明がいかにして生まれ、発展してき

たのかの研究を進め、工学と結び付ける形で体系化」(松井学長メッセージより)するために地球学研究センターを立ち上げられたことなど、を重要な取り組みとして注目しています。その一つの取り組みを11月24日の朝日新聞の記事「1万2千年前『世界最古の神殿』日本隊が調査へ 文明史塗り替えるか」で知ることができました。「調査隊は千葉工大の松井孝典学長(比較惑星学)が統括し、惑星探査や地球科学で使われてきた精密測定や分析の手法も取り入れる」と書かれており、この画期的な取り組みにエールを送ります。

それだけになおさら、貴学が軍事研究に参画することは残念でなりません。貴学を訪問し、そのような私たちの率直な思いもお伝えしたいと思います。

軍学共同反対連絡会

2021年12月10日

軍学共同反対連絡会

共同代表 池内了 様、香山リカ 様、野田隆三郎 様

軍学共同反対連絡会よりいただきました質問に関して以下、本学松井孝典学長とも相談の上、回答いたします。

まず文書に記載のあります多くの国民が本制度に危惧を抱いているとの指摘に関しましては、全ての日本国民がこのような意見とは認識していません。千葉工業大学が防衛装備庁の安全保障技術研究推進に応募、採択された研究内容の概略は以下の通りとなります。

「今回の研究では、固体推進薬の高性能化を目的としており、宇宙空間で利用可能なデブリレスな固体推進薬を開発することです。デブリの原因となるアルミなどの金属燃料を含まずに高性能を維持し真空着火性に優れた推進薬を目指しています。また、高燃焼速度を達成することで、ノズルを排除したノズルレスロケットの開発にもつなげていきます。これは、超小型衛星などにデオービット用の推進系として搭載することを想定し、大気圏に衛星を突入させ燃え尽きさせる役割を果たします。その際、最も燃えにくい素材で作られるノズルは大気圏の再突入時に燃え尽きない可能性もあるため、そもそもノズルを使わず、すべて燃え尽きる固体ロケットを開発し、安全に大気圏に突入可能なシステムの提案につなげたいと考えています」

本研究の内容を確認いただき、研究内容に関して、個別具体的に質問をいただければ、それについては回答をいたします。ロケットエンジンの研究・開発が全て軍事目的ではありません。また、研究内容については学術誌に論文として発表することを前提としていますので、それを防衛省がどのように使うのかについては現時点においては、こちらの関知するところではありません。

本研究は日本が自律的に宇宙にアクセスする能力を維持するための基礎的な研究であると理解しています。

本取り組みは必要不可欠であり、地球環境の維持のためにも重要であると認識しております。

以上

千葉工業大学 大学事務局長 小川靖夫

12月17日

千葉工業大学 大学事務局長小川靖夫様

千葉工業大学 総務部長 福江聡様

12月10日に、私たち軍学共同反対連絡会へのご回答を拝受しました。ありがとうございます。私たちの認識とは異なる点もありますが、大学として回答してくださったこと、またさらなる質問にも答えていただけたこととお礼申し上げます。

私たちは前回の文書で、文書でのやり取りではなく直接貴学に私たちの質問や懸念をお伝えし、話し合うことをお願いしました。ご指摘のように「全ての日本国民」が危惧を抱いているわけではありませんが、危惧している市民・研究者が多くいるのも事実であり、貴学が開かれた大学としてそのような意見に耳を傾けてくださる大学であると信じています。

貴学の「研究者倫理憲章」は「研究者は、学問の自由の下に、研究活動における自主性が尊重され、真理を探究する権利を有するとともに、建学の精神にある世界文化に技術で貢献する責務を負う」と明記しており、私たちはその理念に共感します。だからこそ「学問の自由」が脅かされることに対しては細心の注意を払わねばならないと思います。

ご存知のように日本学術会議の2017年声明は「安全保障技術研究推進制度では、将来の装備開発につなげるという明確な目的に沿って公募・審査が行われ、外部の専門家だけでなく同庁内部の職員が研究中の進捗管理を行うなど、政府による研究への介入が著しく、問題が多い」と指摘しています。貴学の「宇宙空間で利用可能なデブリレスな固体推進薬を開発する」研究は価値があると思いますが、それを科研費ではなく安全保障技術研究推進制度に応募された意図やその経緯をうかがうとともに、私たちの考えをお伝えしたいと思っています。

お伺いする日程ですが、本来であればこちらの都合と貴学のご都合を考慮し調整するものであり、当初は12月10日から16日の間で貴学のご都合を伺いました。今回は年内に話し合いを持つために時間がないので、「12月22日、午後1時半」と設定させていただきます。

こちらの参加者は現時点で井原聡東北大学名誉教授、木村忠彦千葉大名誉教授、寺尾光身名古屋工業大学名誉教授、小寺隆幸元京都橘大学教授の4名です。

なお、市民の関心も高いことから報道関係者も取材を希望しており、数社の新聞記者が同行する予定です。

1時半に貴学の津田沼キャンパスあるいは新習志野キャンパスのどこに行けばよいかをお知らせください。

なお、貴学のご都合で22日の中で時間を変えることは可能です。もしどうしてもその日のご都合つかなければ、ご都合のつく他の日程を複数提示してくださるようお願いいたします。

ご返事は連絡会事務局長の小寺に12月20日正午までをお願いします。

小寺隆幸

12月20日総務部総務課より

軍学共同反対連絡会

共同代表 池内了 様、香山リカ 様、野田隆三郎 様

12月17日（金）に貴会からいただきました文書につきまして、ご連絡いたします。

これまでもお示ししているとおり、研究内容に関する個別具体的な質問につきましては、回答いたしますので、メールにてご質問ください。

ご来校のご意向ですが、研究内容に関する質疑はメールで十分可能ですので、お会いすることは考えておりません。ご訪問はお断りいたします。

以上

《関連資料》学校法人千葉工業大学研究者倫理憲章

平成 26 年 1 月 30 日制定

学術研究は、自由な発想と知的好奇心・探究心に根ざした知的創造活動である。

学校法人千葉工業大学（以下「本学」という。）において知的創造活動を担う研究者は、学問の自由の下に、研究活動における自主性が尊重され、真理を探究する権利を有するとともに、建学の精神にある世界文化に技術で貢献する責務を負う。

本学はこの理念の下に学術研究を推進するため、本憲章を策定する。

知の創造

本学の研究者は、研究における創造を尊重し、先進的な研究に挑戦して新たな知識と価値を創造し、専門家として社会の負託に応える。

研究における誠実

本学の研究者は、常に正直、誠実に判断・行動し、自らの専門知識や技術の維持向上に努めるとともに、研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、捏造・改ざん・盗用等の不正行為を為さず、また加担しない。

責任ある公表

本学の研究者は、自らが携わる研究の意義と役割を広く社会に公開して説明し、その研究が人類や社会に及ぼし得る影響や変化を評価し、その結果を中立性・客観性を持って公表する。

法令遵守

本学の研究者は、研究の実施・研究費の使用等にあたっては、法令や関係規則を遵守する。

他者との適正な関係

本学の研究者は、他者の知的成果などの業績を正当に評価し、名誉や知的財産権を尊重するとともに、自らの研究・審査・評価・判断等において、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する。

差別・偏見の排除

本学の研究者は、研究・教育・学会活動において、人種・国籍・性別・思想・信条・宗教等によって個人を差別せず、公平に対応し、個人の自由と人格を尊重する。